



国際文化観光都市
まつえ
MATSUE CITY 2018

CONTENTS

- 5 市長あいさつ
- より知る松江
9 お茶
- 11 国宝松江城・観光
- 13 神話・縁結び
- 15 小泉八雲
- 17 スポーツ
- 19 文化
- 21 松江市総合計画
「選ばれるまち 松江」の実現
- 31 四季を楽しむ暮らし
- 33 行政、議会、市民憲章、
歴代市長・歴代議長
- 35 姉妹都市&友好都市
- 37 松江市の名誉市民
- 39 松江の歴史
- 41 資料で見る松江市

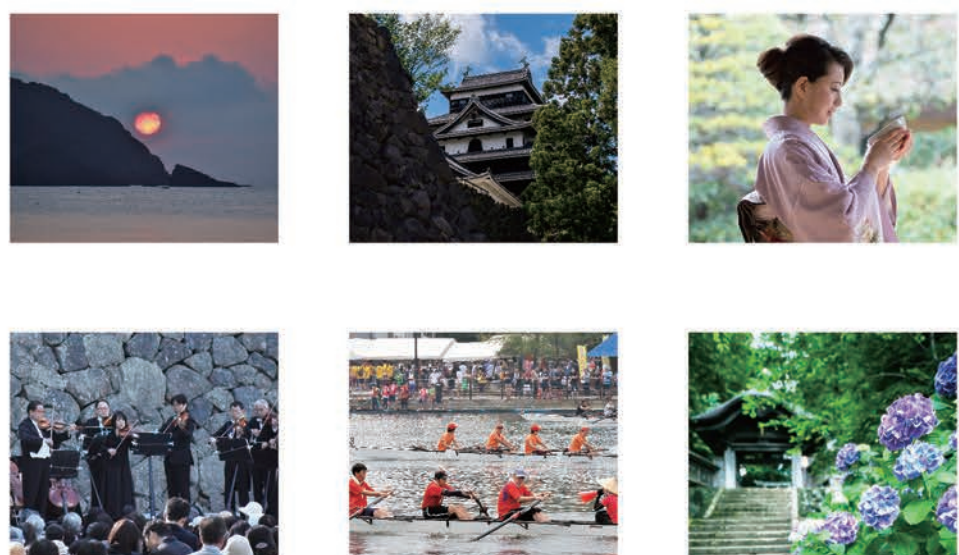


水の都と呼ばれ
日本らしい
四季を感じられる
表情豊かなまちです。

かつて小泉八雲が愛し、
神話が息づく城下町・松江。
大名茶人として知られる
松平不昧公の時代から
人々はお茶に楽しみ、
文化や芸術、スポーツも盛んです。
さまざまな分野で発見できる
松江の魅力を紹介します。

MATSUE STYLE

よりぬき松江

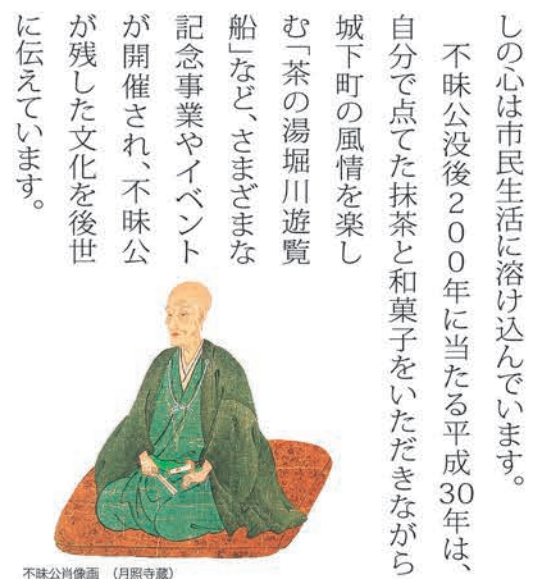


MATSUE CITY 2018



松江城大茶会

京都、金沢と並ぶ日本三大茶会の一つ、松江城周辺の会場でお茶会が開催されます。不昧流や葉千家など一帯に数数の茶会を開催でき、各流派の作法や茶器について説明を受けながら茶の湯の世界に浸ることができます。



不昧公肖像画（資料提供）

大名茶人として知られる松江藩松平家7代藩主・松平治郷（不昧公）の大きな遺産を受け継ぎ、城下町・松江には茶の湯の文化が暮らしの中に息づいています。市民や観光客も楽しめる茶会が開かれたり、不昧公ゆかりの場所や、緑のある景色に囲まれながら気候にお茶を飲めるスポットも多くあります。茶の湯の浸透とともに茶席に欠かさない和菓子の文化も発展しました。不昧公が茶会に使用した茶道具や和菓子などは、不昧公ゆかりとして今も受け継がれ、四季や風情を変えるゆとりとおもてなしの心は市民生活に溶け込んでいます。

おもてなしの
心はぐくむ
茶の湯文化

YORINUKI MATSUE



よりぬき
松江
【お茶会】



明々庵

松平不昧公の好みによって、松江市殿町の有澤家本邸に建てられ、不昧公もしばしば臨まれた客です。昭和41年に現在地の岡市北堀前に移設、開放する南山茶道会館で抹茶を味わうことができます。

テラスで一服

塩見崎手にある茶屋では、堀川沿いのテラスで景色を楽しみながら気軽に抹茶が楽しめます。市内には多くのカフェや茶屋など、抹茶を堪能し、不昧公がもたらした茶の湯文化は松江の観光資源になっています。



和菓子

松江は、京都、金沢と並ぶ日本三大菓子産地で、和菓子の種類も多くあります。不昧公の御意に作り込まれた「苺栗」「山月」「虎巻の餅」は松江三大銘菓です。現代の名工・伊丹二夫氏の和菓子が味わえる喫茶や、和菓子作りを体験できるスポットもあります。今年は不昧公200年祭にあわせ、松江市の和菓子店がそれぞれ記念の創作菓子「不昧菓」を作り出しました。



MATSUE CITY 2018

興雲閣

水造2階建てで、明治36年、明治天皇の御幸を期して市工芸品陳列所として建設。同40年には、大正天皇が皇太子時代に訪問した際の宿泊施設として使用されました。平成27年に保存修理工事が完了し、赤い緑色の外観など往時の姿がよみがえりました。



松江歴史館

松江城を囲む堀川のほとりに武家屋敷風の構えで建ちます。松江の歴史や文化を分かりやすく紹介。信利体系室、家老屋敷を備え、併設した松江城天守が望めます。



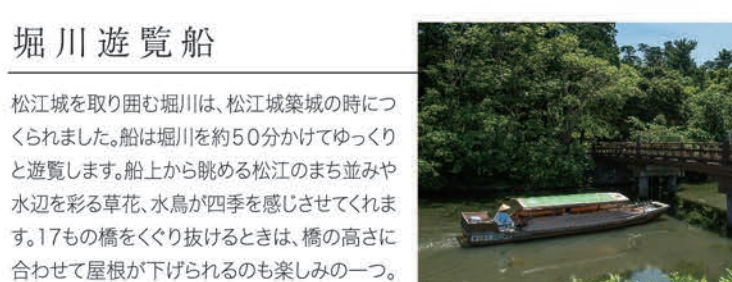
松江武者行列

松江開府の祖、堀尾吉晴公の一代が松江城に入城する様子を再現した時代祭です。男壮年武者やあやな姫などに扮した大勢の市民が参加。天守を目撃して練り歩きます。平成15年に始まり、同19年から多くの観光客が賑を見に訪れる4月に開催されています。



松江水燈路

松江城周辺をライトアップする光のイベントで、光と影が織りなす美しい明かりが見えるの心を抱きます。目玉は、1年ごとの時どきの「堀川遊覧船」の灯り。堀川から流れる松江のまち並みや水辺を彩る草花、水鳥が四季を感じさせてくれます。17もの橋をくぐり抜けるときは、橋の両側に合わせて屋根が下げられるのも楽しみの一つ。



堀川遊覧船

松江城を取り囲む堀川は、松江城築城の時に掘られ、堀川遊覧船の舟がゆくとつと遊覧します。船上から眺める松江のまち並みや水辺を彩る草花、水鳥が四季を感じさせてくれます。17もの橋をくぐり抜けるときは、橋の両側に合わせて屋根が下げられるのも楽しみの一つ。



よりぬき
松江
【国宝松江城・観光】

YORINUKI MATSUE

地域資源を
生かす

古からの歴史文化が残り、雄大な景色が広がる松江市は、国際文化観光都市として、地域資源を生かした観光力をつけています。筆頭は、平成27年に国宝に指定された松江城天守です。全園に現存する12天守のうち国宝は一つ、市民の誇りであり、憩いの場であると同時に多くの観光客でにぎわっています。城山公園内にある明治時代の迎賓館で、県指定有形文化財「興雲閣」も存在感を放ちます。江戸時代のたすまいが残る風景や、名湯「湯温泉」と、国内外の人々を引きつけるスポットも多くあります。また、穴道湖や入り海、河川、中海などがある松江は水の都でもあり、四季折々の風景を楽しむ穴道湖や堀川遊覧船、幻想的な水燈路など、水の都ならではのイベントがあります。平成29年には、鳥根半島公園「中海」が日本オリーブパークに認定され、新たな魅力を発信しています。



松江城の祈禱札

札に記された文字から、建業年が慶長16（1611）年正月と判明され、国宝指定の決め手となりました。